



大砂土中だより

は っ ら っ

澆 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.8 令和4年12月1日号

心のラリー

校長 上続 昌司

正門近くの銀杏の葉が黄色く色づき、朝の気温も10度を下回るようになり、冬の訪れを感じるようになってきました。登校してくる生徒もマフラーを巻いたりウィンドブレーカーを着たりと、防寒する人が増えてきましたが、「おはようございます」と元気な声が返ってくると、心は暖かくなります。最近、先に生徒の方から挨拶をしてくれることが増え、マスク越しにも笑顔なのが分かる人も増えてきています。

さて、今回は2年生、土門美琴さんの作文を一部ですが紹介したいと思います。なお、この作文は、埼玉県税の作文コンクール『県知事賞』を受賞しています。おめでとうございます。(県知事賞とは、埼玉県で第1位の作文ということです)

題名「納税のラリーを続けよう」

私が当たり前に感じていた無料サービスは、納税者のおかげで成り立っていることに気付いた。納税者一人ひとりの大切なお金で支えられていることに「ありがとう」と伝えたい。学費を払わずに楽しくクラスで授業ができる。夏休みでも大好きな卓球を仲間と打ち合える。上手くなるために、いかに長くラリーを続けられるか、相手を思いやりながら練習する。相手が打ちやすい場所に球を返せるかが重要だ。ラリーを続ける練習は、税の仕組みに似ている。税は球であり、ラリーは私たちの豊かな生活を続けることと同じだ。球である税が、受け取り手によって的外れな方向に行っては豊かな生活のラリーは続かない。税もお互いの立場を思いやり、余裕のある人が苦しい人に優しい球を出してあげればいい。卓球の打つ人と打ち返す人は入れ替わる。公共のサービスを受けてただけでの人も、やがて納税者になる。未来の私だ。私は助ける立場になり、納税の義務を果たしたいと思う。

納税を卓球のラリーに例えて、相手の立場を思いやる大切さや義務を果たす重要性、普段当たり前のように受けているサービスも、多くの人の努力で成り立っていることに気づき、感謝の気持ちを忘れないこと等を伝えてくれています。朝の挨拶も心のラリーとなり、気持ちよく一日を過ごすためのきっかけになると良いですね。

2学期も、新人戦やアンサンブルコンテスト、合唱コンクール等の行事を通じて生徒の皆さんの活躍がたくさんありました。11月1日の授業研究発表会では、市内の多くの先生方からお褒めの言葉をいただくことができています。

残り1ヶ月となった2学期をしっかりとまとめ、3学期も大いに活躍してくれることを願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様には2学期も本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき本当にありがとうございました。3学期も何卒よろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。

【表彰の記録】

「さいたま市中学校新人体育大会」